

令和 2 年 1 2 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市立友田小学校

この文化財ニュースでは、今まで市立新町小学校まで紹介してきました。今回ご紹介する市立友田小学校は、前回の新町小学校と同じような歴史を持つ学校です。

友田地区は江戸時代から友田村として存在していましたが、明治 22(1889)年の町村制の施行により、調布村の一部となりました。そのような歴史から、学制が発布されてすぐの明治 6 (1873)年には友田村だけの学校が作られました。その後、調布村ができたため、現在の第二小学校の分校という形で 100 年近く存続し、分校廃校後、「青梅市立友田小学校」として独立した学校として作られた学校なのです。その辺をもう少し詳しく見てみましょう。

明治 5 (1872)年 8 月 2 日 (旧暦)、「一般の人民邑ニ不学ノ戸無ク、家ニ不学ノ人無カラシメン事ヲ期ス、…」という「学制」が発布されました。この時点では「友田村」でしたので、村にある真言宗の寺院「華蔵院」(※)を借用して「友華学舎」を立ち上げます(明治 6 年)。この時の児童数は 79 名でした。旧調布地区には学制以前の明治 4 (1871)年に開校した上長淵村・下長淵村に「協心神習舎」、駒木野村に「臥龍学舎」、千ヶ瀬村と河辺村に「桃盛学舎」ができました。「友華学舎」ですが、明治 8 (1875)年 11 月の卒業証書には「第八中学区多摩郡友田村、第二百七番小学、友田学校」と記録にあるので、創立から 2 ~ 3 年で名称が変わりました。(当時青梅市域一帯が所属していた神奈川県から名称変更の通達が出された)

そして、明治 22 年に「町村制」発布され、友田村・上長淵村・下長淵村・駒木野村・千ヶ瀬村・河辺村の 6 ヶ村が合併して調布村ができると、市内最古の下長淵村字寺改戸にある調布村立調布尋常高等小学校(現市立第二小学校)がその中心になっていきます。

そして、友田村の「友田学校」は、「調布村立調布尋常高等小学校」(現市立第二小学校)の「友田分教場」としてスタートします。当初の友華学舎は、華蔵院の建物を間借りしていたと思われますが、明治 40(1907)年にそれまで 4 年の修養年限であった尋常小学の義務教育を 6 年に延長、高等小学の修養年限を 2 年とする小学校令が改正されると、児童数も増えるため新しく現在の友田保育園の所に新校舎を建築し、明治 44(1911)年 8 月に新生友田分教場が開校し、1 年生から 4 年生までが通いました。

この頃、行政的には調布村の中の友田であったわけですが、戸数も 180 軒程有り財政的にも豊かであったのか、長淵にある本校(現二小)から独立しようという動きが出てきたようです。それは、大正 3 (1914)年 2 月 15 日に調布村議会に「学区分離申請書」が出され

たという記録が残っています。しかしこれは、同じ村内において学区を分けるということは村を分割することにもつながるという理由から議会で採択されなかったということでした。

畠山忠次郎先生のこと

友田分教場のことを語る時に欠くことができないのは、畠山先生のことであると多くの方がいろいろな書物で書き残しています。畠山先生は、大正8(1919)年3月に友田分教場に着任され、昭和27(1952)年10月の退職まで34年間友田分校の主任として地域や子供たちの教育に尽くされた方です。昭和23年の秋に地元から先生に住宅が寄贈されたり、先生のための頌徳碑が現自治会館前庭に建てられたりと、

これほど地域の方々に愛された先生はいなかったのではないかと感じ入った次第です。

さて、昭和26(1951)年、旧青梅町・調布村・霞村が合併し、青梅市が誕生すると、学校名が青梅市立となり、昭和30(1955)年にナンバー制度が導入され、青梅市立第2小学校(初めはアラビア数字)友田分校に名称が変わります。青梅市は、学校教育の充実のため施設整備の拡充にも力を入れ、校舎が順次鉄筋化されていきました。その最初が第二小学校でした。第二小学校の新校舎が完成すると分校は本校に吸収されることになりました。当時、市内のナンバースクールにはいくつもの分校がありましたが、最初に新校舎が完成した第二小学校の分校が廃止されました。友田分校も昭和41(1966)年3月にお別れの会が行われ廃校となりました。昭和33(1958)年度に生まれた子供たちが友田分校最後の入学児童となり、2年生からは本校(第二小学校)へ通いました。友田分校や駒木野分校の廃校が市内で一番早かったわけです。

昭和40年代になると河辺地区や霞台地区の区画整理事業が始まり、急速に宅地化されていきました。第二小学校の児童数も増加の一途をたどり、新しい学校を作る必要に迫られていきました。そうして最初に出来上がった学校が河辺小学校で、その後、新町小や霞台小と続き、友田地区にも新たな学校が必要になりました。そこで協議を重ね、現在の場所に学校を建てることになりました。多くの方々のご助力により、昭和52(1977)年4月長渕1、9丁目と友田町1～5丁目を学区とする友田小学校が新たに開校しました。9学級児童数294名でのスタートでした。初代校長の横田正一氏をはじめ、教職員22名でのスタートです。その後、校章や校歌の制定を始め、校門の所には友田のシンボルである桑の木が植えられるなど、学校としての施設や制度が順次整っていきました。そして、地元根差した教育を進め、開校以来42年の年月を数えています。令和2(2020)年の4月より、第12代せのお妹尾達実校長先生を迎え、新たな歴史を刻むべく、新型コロナウイルス感染拡大下ではありますが、教職員一丸となって友田地区の子供たちのために頑張っているとの事です。

※現在は「花蔵院」ですが、青梅市史等では「華蔵院」となっています。

参考文献：『青梅市史』、『青梅市教育史』、『友田小学校開校記念誌』他

(文責 神森 正)

学区分離申請書
一 今回友田住民協議ニ依リ学区
分離相成様本村村会ニ御提出
在テ速ニ議決相成度一同連署
ヲ以テ此處申請候也
大正三年二月十五日
西多摩郡調布村友田

調布村議会に提出された申請書